

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスベース

(宮古・大槌・釜石・障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

明けまして おめでとうございます

仙台教区サポートセンター長 平賀 徹夫 司教



新年をお迎えになり、多くの方々は、改めてあの東日本大震災を思い浮かべられたことでしょう。

2011年3月11日から、今年は丸5年という節目を迎えます。皆さまは、あの震災にどこで遭われたでしょうか。

被災されたお一人おひとりのご体験は違うことでしょう。しかし、受けられた精神的衝撃などは、5年過ぎたといっても、その傷がいやされた、と言えるまでにはほど遠いことでしょう。年月がたつほどに、かえって、その衝撃は深化する、とおっしゃった方もおられるくらいです。

地震、津波、原発事故以後、苦しい生活を送っていらっしゃる被災者の方々、不安な日々を過ごしておられる方々の苦しみ、痛みを少しでもお助けできればと、仙台教区サポートセンターには、震災直後から現在まで、多くのボランティアの方々が、海外から、そして北は北海道から、南は沖縄からもはせ参じてくださっています。これまで、支えてくださった多くのボランティアの皆さま、本当にありがとうございます。2016年1月12日現在、石巻、米川、釜石のベースで活動するためにお申し込みして下さったボランティアは、13,069人を数えています。

私ども仙台教区サポートセンターでは、北は岩手県の宮古ベースから、南は福島県のいわきサポートステーション「もみの木」に至るまで、拠点となるベースを定め、被災された方の身近で奉仕しようとしております。これらのベースはカリタスベースと呼ばれ、センター、デスクを含め、12カ所あります。このベースでベース長として、また、スタッフとしてご尽力してくださっている皆さま、本当にありがとうございます。

さらに、被災地を思い、祈りをささげ、バザーを開いたり、ケーキを焼いてくださったり、お茶っこのためのコーヒーやお茶などを送ってくださっている全国各地の善意の皆さま、学校、教会、修道会の皆さま、本当にありがとうございます。皆さまの働きに支えられ、この1年間も一緒に過ごすことができました。

これまで、震災から6ヶ月を第1期・緊急避難期、その後の1年半を第2期・仮設住宅期、そして現在は、第3期・復興住宅への移行期として支援活動を展開してまいりました。2016年4月からは、第4期に入ります。もうすぐ、第4期の活動計画を発表できるでしょう。また、皆さまと心をあわせ、復興支援活動を続けていきたいと思っております。

新しい年の初めにあたり、皆さまの上に、神様の祝福が豊かにそそがれますようにお祈りいたしております。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

子ども主役のクリスマス会に

カリタス大槌ベース 生利 望美

2015年12月23日、子どものためのクリスマス会を大槌ベース主催で行いました。大槌町内の小学生を対象に募集したところ、当日は小学生と親・兄弟など合わせて、参加者約40名。

ベース主催の子どものクリスマス会は3回目になりますが、初めて行ったクリスマス会というのは「これまで手にしたことのないくらいたくさんのプレゼントを持って帰ってもらう」という目的のもと計画されたものでした。九州全域の修道会、教会からたくさんの支援金、プレゼントを送ってもらい、それは誰もがびっくりするような夢の世界、豪華なクリスマス会でした。前ベース長の「たくさん与えることで、今度は周りに分け与えることを覚える」という考えからでした。

しかし時が経つにつれ、被災地では住民自らが自立していかなければ…という雰囲気…。自立できる人たちと自立できない人たち。いろんな人たちの間に存在する私たちは、クリスマス会に限らず今後の支援の在り方について随分と思い悩んでいました。「クリスマスはどんなに貧しい人もどんな立場の人も、世界中の人たちが喜んでいなきゃいけない日なんだよ」、という前ベース長である神父様の言葉をクリスマス時期には思い出していました。

ダンプカーが行き交い土埃の何も無い町で、仮設住宅住まいで、学校も仮設で…普通ではない環境で育っていく彼らと関わる中で、子どもたちは言葉で表現することはほとんどなく、とにかく態度で示してくるのです。先生でも親でもない立場である私たちだから表現できる彼らなりの何かしらのメッセージを一生懸命探ります。その中で一番感じ取られることは、「自分を見てほしい。褒められたい」ということ。



支援が縮小される中、子どもたちだけでも…と今回のクリスマス会を一生懸命考えました。その中で一番大事にしたかったのが、子どもたちが主役になれるクリスマス会にしよう、ということでした。郷土芸能や和太鼓を習っている子どもたちに声を掛け、ステージ発表をしてもらいました。ステージに友達が立っているときは一生懸命見よう！ とお願いすると子どもたちは友達のステージを真剣に見てくれました。和太鼓の演奏が終わって、だれか体験してみたい人！ と聞くと手を挙げて前に出てきてくれた子もいました。そんな様子をととても嬉しく感じました。



和太鼓体験にドキドキわくわくの子どもたち

ささやかなクリスマスランチを、大人も子どもたちの間に交じって一緒に食べました。「今日がお誕生日！」という子どもがいて、みなでお誕生日の歌をプレゼントしました。午後は、お楽しみのゲームを企画していました。色を分けてチーム対抗戦でゲームを進めました。私の進行が悪く、途中どうしようかと焦りながらも、誰か一人でもさみしそうな顔、つまらなそうな顔をしている子どもがいないか、必死で確認していました。チームの仲間を大事にしてもらえるような工夫をゲームに取り込み、最初は遠慮がちだった子も最後は必死で仲間を応援していました。

最初に企画した時のクリスマスに比べたら、手に持って帰るプレゼントの量はかなり少なかったけれど、最後までどの子も本当にいい笑顔でした。帰り際にある男の子がちょんちょんとわたしをたたき「今年一番楽しかった」とボソッとしてくれたことに涙が出そうでした。この先どれくらい彼らに寄り添っていけるかわからないけれど、側にいる限りは一瞬の喜びを共に、周りと共に感じられる時間を増やしていこう…と強く思いました。



ベル」「サンタが街にやってくる」などが次々演奏されました。はじめは、遠慮がちに静かにスタートしましたが、みなさんが知っている歌になると声高らかにオープンスペースいっぱいに歌声が響き渡りクリスマスムードが高まりました。

「お茶会」では、差し入れされた手作りの「ケーキ」や「和菓子しおがま」が瞬く間に完食となりました。お茶会での懇談の中で、1歳の誕生日を今日迎えた赤ちゃんが参加していることが判り、ボランティアさんの提案で、参加者全員で「ハッピーバースデー」を歌い、お祝いしました。



クリスマス会当日に誕生日を迎えた赤ちゃん

お楽しみの「プレゼントタイム」では、石巻ベースのスタッフの配慮で、全国から寄付されたプレゼントを参加者に喜んでもらうため、プレゼントの中味を大人の男性、女性、子ども用の3つに区分して入れられ、くじ引きしました。参加者は、大人男性9名、女性45名、子ども8名で、ボランティアとスタッフを入れると70名を超える人数でした。想定をはるかに上回る人数でしたが、何とかプレゼントを全員に渡すことができ、スタッフは安堵していました。

今回ノクリスマス会の準備のために、石巻ベースのスタッフ全員が、どんなクリスマスにすれば、被災地の方々に喜んでもらえるか、何回か打合せをしました。そして、全国にプレゼントの提供を呼びかけ、さらに、ボランティアをお願いして、今回のクリスマスのイベントになりました。

参加者がどんどん増えるのに合わせ、ベースにあるキャンプ用机や丸椅子をすべてかき集め、ギュウギュウのすし詰め状態でしたが、参加された方が馴染みの方を探しながらそばに座られ、楽しく過ごされ、家路に着かれました。

中村ベース長は、最後に参加者のみなさんへ「1月に餅つき新年会を予定しているので、ぜひおいでください」と呼びかけていました。また、プレゼントを提供していただいた全国のみなさんとボランティアの方に感謝していました。

日頃のお茶会やこのようなイベントを通して、被災地の方々と共に歩み続けることができ、人と人のつながりが作られてゆくことに感謝いたしました。



被災地のみなさんを招いての 石巻ベースでのクリスマス会に参加して

仙台教区サポートセンター 小野 武

昨年の12月19日（土）に、石巻ベースのオープンスペースで昨年に引き続きクリスマス会が開催されました。今回は、「ミニコンサート“みんなで歌おうクリスマスソング”」「お茶会」、そしてお楽しみの「プレゼントタイム」の3部構成で進められました。

当日は14時からの開始でしたが、早々と来場され、準備が整うまで待ってもらう人も数人おられました。

開会のあいさつで、石巻ベース長の中村愛さんが「被災地のみなさんが、日頃からカリタスの活動に参加いただいていること、全国のみなさんからの支援により、活動が継続出来ていることに感謝したい」と話されました。

コンサートでは、中村さんの伴奏に合わせて、クリスマスにふさわしい「あわてんぼうのサンタクロース」「あめのみつかい」「ジングル・

福島県・宮城県の被災地視察

Bコースに参加して

カトリック篠ノ井教会 千原 信之

仙台サポートセンターに8名が集合し、聖堂で祈りを捧げツアーが始まりました。「見て・聴いて・感じて・考えてください そして伝えてください」神父さまが都度口にされたこの言葉、耳の奥にテーマとして残っています。

私はボランティアの経験があるものの、ツアーで東北・福島のことを何も知らなかった自分を知りました。各ベースの皆さんや出会った方々から、とても多くの「今のこと」「3.11と3.15その時からのこと」をお聴きしたことが忘れられません。

1日目晴れ

亘理の「いちごっこ」で、美味しい昼食をいただきながら「みんながんばっている。でも食べないで何がんばれるのか、と『いちごっこ』を立ち上げました…」とお話をお聴きしました。強い思いとみなぎる力を感じました。

日和山公園から望んだ石巻の町。公園の神社石段を黙々と駆け上がる高校生たちがいました。6月に塩釜神社で出会った石段を駆け上がる高校生たちの姿と重なりました。ガンバレ！ 若い力をひしひしと感じました。(米川ベース泊)

2日目晴れ

モアイの町、南三陸ボランティアセンターで半日の活動をしました。他のボランティアの方と共に志津川漁港で牡蠣の作業を行いました。

米川ベースで身支度をお借りし、漁師の方より作業説明を受け、大きなステンレス台を囲み作業を始めました。作業に不安もありましたが、次第に手が動くようになり、積まれた10カゴ程の作業を終えることが出来ました。ボランティア活動に参加出来、ほんの少し達成感を感じ、それぞれの思いが深くなりました。(原町ベース泊)



牡蠣の作業場（志津川漁港）

3日目雨

小高駅前の「おだかぶらっとほ一む」を訪れました。担当の方に「まずお一人お一人に思い出して話をしてほしい。あの時どこにいて、どんなだったのでしょうか。さあどうぞ」と語りかけられ、順に一人一人が3.11その時の自分を話しました。私は「あの時僕はどうだっただろう」と思い巡らし、「僕は新潟市でセミナーに参加していました…」と話しました。皆が話し終わり担当の方が静かに「私はあの時、原発から数キロの所にいました」と語り出され「皆さん、私たちみんなが同じ震災を受けているのです。決してそのことを忘れないでください」と結ばれました。小高への思いを綴った映像を見せていただき、涙がこみ上げ、決して忘れないと思いました。



富岡駅へと続く線路

第78号 2016年1月15日

いわきへの6号線は帰還困難区域となってしまった町々を縦断します。道々に続くフレコンバック。今までに見ない風景が続きました。3月15日3度目の福島第一原発爆発。忘れてはならない日を痛感しました。車窓に続く風景はその時止まったままで、胸が詰まり言葉になりません。富岡駅への道で錆びつき続くレールを見ました。海岸線を走る常磐線でした。唱歌「汽車」はいわきから広野町を越え続く常磐線の風景と車中で聴きました。

♪今は山中今は浜…遠くに見える村の屋根 近くに見える町の軒 森や林や田や畑…♪

なんと豊かな地域なのでしょう。

(もみの木サポートステーション、いわき教会で終了の会)

ツアーの企画と実行をしていただきました皆様に感謝いたします。ぜひ多くの方にツアーで「見て・聴いて・感じて」を共にしていただければと願っています。



かさ上げが進む南三陸町を望む（南三陸町立志津川中学校から）

＊千原さんは、2015年12月9日～11日 Bコースの視察ツアーに参加されました。ご参考までにBコースの大まかなスケジュールをご紹介します。(ツアー内容は、変更になる可能性がございます。)

また、Bコース次回開催予定は、4月18日(月)～20日(水)となっております。お申し込み受付開始は、1月18日(月)からです。定員に達し次第、締め切らせていただきますので、ご希望の方は、お早めにお申し込みください。

◇1日目 12月9日(水)

9:30 元寺小路教会集合・受付。聖堂にて祈りを捧げ、出発。

プログラム① 亘理方面視察

プログラム② 石巻方面視察

プログラム③ 南三陸方面視察

18:00 米川ベース着

(夕食、分かち合い等を行い、米川ベースに宿泊)

◇2日目 12月10日(木)

8:00 米川ベース出発。

プログラム④ 南三陸町でボランティア体験と視察。

プログラム⑤ 原町方面視察

17:00 原町ベース着

(夕食、分かち合い等を行い、原町ベースに宿泊)

◇3日目 12月11日(金)

8:30 原町出発。

プログラム⑥ 南相馬、浪江町、大熊町、富岡町視察

プログラム⑦ いわき方面視察

14:20 いわき教会着。

教会の活動の紹介の後、聖堂にて祈りを捧げ、視察終了。

15:00 いわき教会にて解散(希望者は仙台解散17:30)。